

平成28年度公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート(1)

(区分) 国補 県単

事業名	かんがい排水事業(国補)		事業箇所	南アルプス市		地区名	四ヶ村堰	事業主体	山梨県
(1)事業着手年度	H13年度	(2)事業期間	H13年度~H23年度	(3)完了後経過年数	5年	(4)総事業費	2,142百万円		
(5)事業着手時点の課題・背景					(8)事業位置図等				
<p>四ヶ村堰は、一級河川釜無川左岸で取水し、南アルプス市内の旧八田村、旧白根町、旧若草町にわたる農地274haを潤す農業用水路である。本地区は水稲に加えて、きゅうり等の指定野菜の栽培や、近年ではぶどう、もも、すもも等の高品質な果樹生産地を形成し生産性の高い農業を行っている地域である。</p> <p>しかし、施設は昭和26年度に整備され、築造以来60年以上が経過していることから、頭首工などの取水施設の老朽化が著しく、また、導水路や沈砂地への流入土砂が多いことから通水阻害が生じるなど、施設の維持管理に多大な費用と労力を要していた。</p> <p>このため、老朽化した取水施設を改修し、安定した農業用水の確保と農業災害の防止を図るため本事業を実施した。</p>					省略				
(6)事業着手時点で想定した整備目標・効果									
(事前評価未実施)									
<input type="checkbox"/> 主要目標 農業用排水能力の向上									
<input type="checkbox"/> 副次目標 農業生産力の向上									
<input type="checkbox"/> 副次効果 農地の保全 既存施設の崩壊危険性の排除									
(7)整備内容(目標達成の方法)									
事業量	頭首工	一式	導水路工	一式					

2. 評価シート（1）

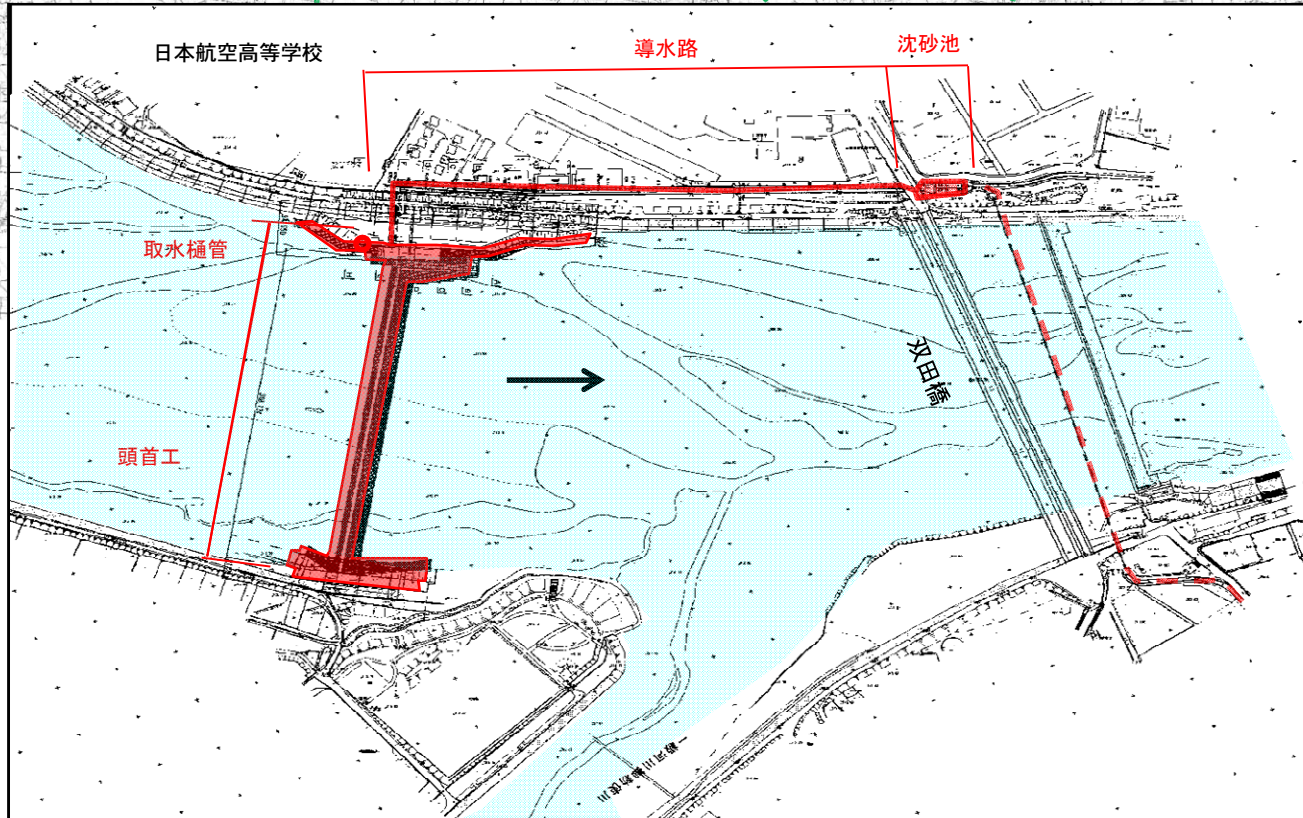
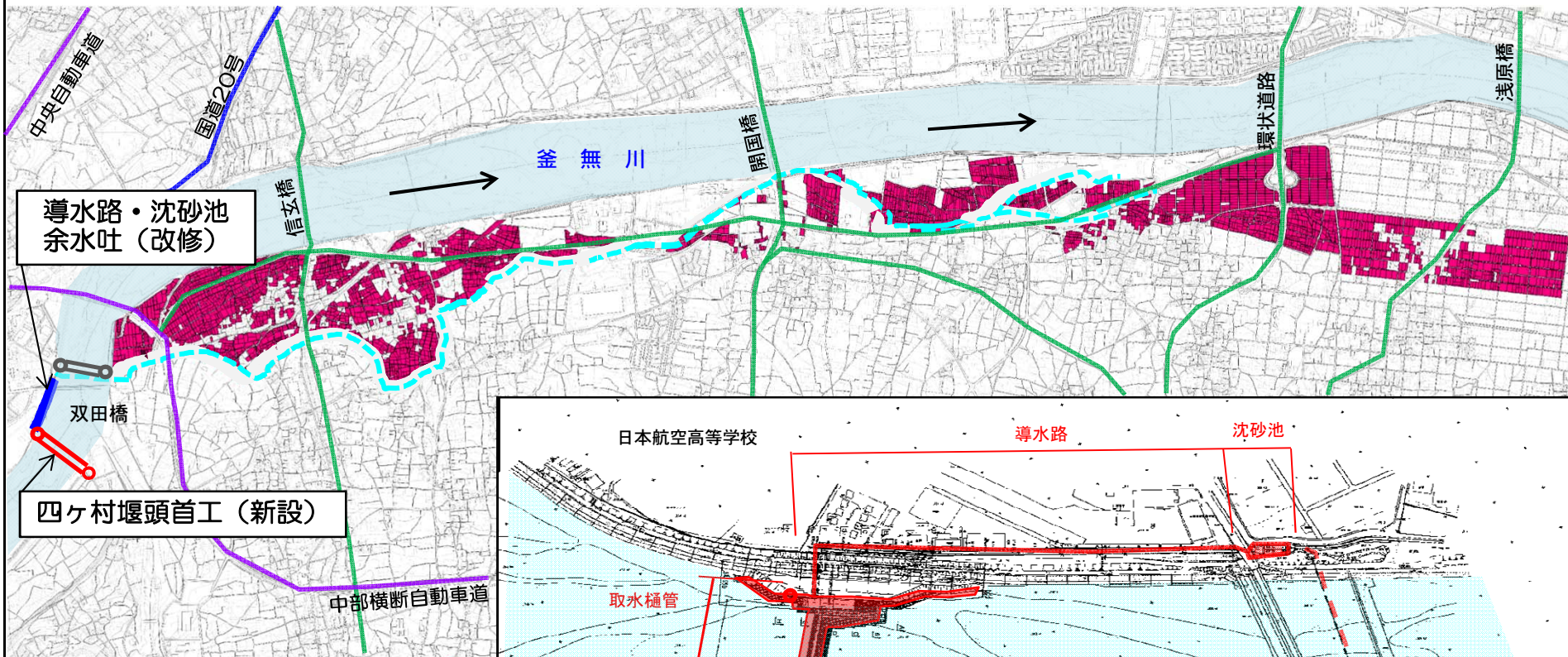
<p>(1)事業貢献度 < (良) ・ 不良 ></p> <p>(理由) 老朽化した取水施設が整備された事により、農業用水が確保され、農業経営の安定が図られた。</p> <p>① 主要目標 農業用排水能力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設老朽度(残耐用年数)</td> <td>0年</td> <td>45年 ※1</td> </tr> <tr> <td>用排水能力向上率</td> <td>1.00</td> <td>1.00 ※2</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価時点の数値に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備により耐用年数が向上しており、老朽度は改善されている。 ※1 施設老朽度 = 施設の耐用年数(50年) - 完成時からの経過年数(5年) 用排水能力向上率が基準値1.00以上を満たしている。 ※2 用排水能力向上率 = 計画用排水能力(2.67m³/s) / 既存用排水能力(2.67m³/s) (現況の用水量を維持するための施設整備であり、用水量の増減はない。) <p>② 副次目標 農業生産力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>面積当たり農業所得増加額</td> <td>355千円/ha</td> <td>543千円/ha</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価時点の数値に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業所得の増加額が、評価基準値351千円/haを上回っている。 (用水の安定供給により、干ばつ等による被害が減少し、高品質な作物が生産可能となったため) <p>③ 副次効果</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農地の保全</td> <td>安定した用水が確保されたことにより、営農が継続され農地が保全されている。</td> </tr> <tr> <td>既存施設の崩壊危険性の排除</td> <td>老朽化が著しい取水施設の改修により、施設の破損に伴う河川の堤防決壊等が生じる危険が排除された。</td> </tr> </tbody> </table> <p>④ その他の事業効果の発現状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 営農が継続されていることから、耕作放棄地の増加が抑制されている。 	指標	着手時点数値等	評価時点数値	施設老朽度(残耐用年数)	0年	45年 ※1	用排水能力向上率	1.00	1.00 ※2	指標	着手時点数値等	評価時点数値	面積当たり農業所得増加額	355千円/ha	543千円/ha	項目	内容	農地の保全	安定した用水が確保されたことにより、営農が継続され農地が保全されている。	既存施設の崩壊危険性の排除	老朽化が著しい取水施設の改修により、施設の破損に伴う河川の堤防決壊等が生じる危険が排除された。	<p>(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 < (有) ・ 無 ></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>着手時点の計画</th> <th>事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,785百万円</td> <td>2,142百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td>H13~H20</td> <td>H13~H23</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>1,785百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>2,631百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>1.47</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2,030百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>3,883百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1.91</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 平成18年度再評価地区 総事業費1,832百万円、工期H13~H21に見直し</p> <p>(要因変化の分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総事業費： 河川協議に伴う取水施設の構造変更による増。 工期： 国土交通省との河川協議の長期化に伴う工期の延長。 <p>(3)事業実施による環境の変化</p> <p>① 自然環境への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定した用水の確保により、営農が継続され、地域の良好な農村景観が保たれている。 <p>② 生活・居住環境等への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> 防火用水の確保にもつながり、地域用水としての機能が保たれている。 <p>③ 環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）</p> <ul style="list-style-type: none"> なし <p>(4)社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響</p> <p>① 社会経済状況の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> なし <p>② 関連計画・関連事業の状況の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> なし <p>③ 事業環境等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> なし 	項目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	1,785百万円	2,142百万円	工期	H13~H20	H13~H23	経済効率性	費用	1,785百万円	便益	2,631百万円	B/C	1.47			2,030百万円			3,883百万円			1.91
指標	着手時点数値等	評価時点数値																																													
施設老朽度(残耐用年数)	0年	45年 ※1																																													
用排水能力向上率	1.00	1.00 ※2																																													
指標	着手時点数値等	評価時点数値																																													
面積当たり農業所得増加額	355千円/ha	543千円/ha																																													
項目	内容																																														
農地の保全	安定した用水が確保されたことにより、営農が継続され農地が保全されている。																																														
既存施設の崩壊危険性の排除	老朽化が著しい取水施設の改修により、施設の破損に伴う河川の堤防決壊等が生じる危険が排除された。																																														
項目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																																													
総事業費	1,785百万円	2,142百万円																																													
工期	H13~H20	H13~H23																																													
経済効率性	費用	1,785百万円																																													
	便益	2,631百万円																																													
	B/C	1.47																																													
		2,030百万円																																													
		3,883百万円																																													
		1.91																																													

評価シート（2）

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>
<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業用水の安定供給がなされ、稲作から野菜や果樹への転換が可能となり、農業所得が増加するなど十分な効果が発現されている。 また、整備された施設は、管理主体である四ヶ村堰土地改良区により、長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るための維持管理を行っていくことから、今後の事後評価は必要ないと思われる。 <p><input type="checkbox"/> 「有」の場合の実施時期及び方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時期： 年度 ・ 方法： 	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なし <p>(具体的反映策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なし
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>
<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なし <p>(具体的改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なし <p>(既に実施した改善策の内容と効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なし 	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なし <p>(具体的反映策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なし
	<p>(9) その他特筆すべき事項 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なし

3. 添付資料シート（1）

かんがい排水事業 四ヶ村堰地区 計画一般平面図



凡	例
	受益区域
	頭首工（新設）
	頭首工（既設）
	導水路（改修）
	導水路（既設）

凡	例
	高速道路
	国道
	主要地方道

①取水施設



老朽化した取水施設を改修し、安定した農業用水の供給が可能になっている。



着工前
取水口から土砂が流入し通水阻害が生じていた。

②導水路

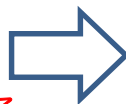


完成後
通水能力が向上したことから、維持管理労力が軽減されている。



着工前

③沈砂池



完成後

沈砂地に堆積した多量の流入土砂により通水阻害が生じていたが、本改修により維持管理労力の軽減が図られている。



④受益地状況



安定した用水が確保されたことにより、営農が継続され、地域の良好な農村景観が保たれている。きゅうり等の指定野菜の栽培や、近年ではぶどう、もも、すもも等の高品質な果樹生産地の形成が進んでいる。